

1) 著作権保護のための表示

-----  
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.  
-----

2) 研究会基本情報

-----  
タイトル：「多言語混在状況を前提としたアフリカ記述言語学研究の新展開」（令和5年度第1回研究会）

日時：2023年9月2日（土曜日）午後3時より午後6時

場所：AA 研小会議室（302）およびオンライン会議室

1. 古閑恭子（AA 研共同研究員，高知大学）

「アカン語の *wɔ* 所有／存在文と構文交替」

2. 梶茂樹（AA 研共同研究員，京都産業大学）

「無文字社会におけるテキスト—特にウガンダ西部のニョロ族のタブー表現について—」

3. 全員

「ビジネスミーティング：国際 WS 開催および成果公刊について」  
-----

本プロジェクトの2023年度第1回研究会は、上記日時において7名の参加者を集めてハイブリッド形式で開催された。第1発表の「アカン語の *wɔ* 所有／存在文と構文交替」においては、アカン語において、所有表現にも存在表現にも用いられる形態素 *wɔ* を用いた構文について、さまざまな意味関係にある項を持つ多様なデータをもとに、構文選択の条件について検討した。第2発表「無文字社会におけるテキスト—特にウガンダ西部のニョロ族のタブー表現について—」においては、無文字社会におけるテキストの特徴を取り上げ、ウガンダ西部のニョロ語社会のタブー表現を中心に、その論理とそれが果たす社会的役割についての考察が展開された。いずれの発表に関しても、議論の詳細は、以下に示すハンドアウトを参照されたい。最後にビジネスミーティングが行われ、最終年度におけるプロジェクトの成果の一部として開催する国際研究集会について、共催課題「通言語的観点から見た音声類型論」との共催とし、ゲストは本課題の共同研究員である Nico Nassenstein 氏（マインツ大学）に加え、「通言語的観点から見た音声類型論」から Andries Coetzee 氏（ミシガン大学）を迎えることなどを共有した。また、AA 研ジャーナル別冊を媒体とした成果公刊論集についての検討も行った。

文責：品川大輔

アカン語の wɔ 所有／存在文と構文交替  
古閑恭子（高知大学）

0. はじめに

アカン語（ガーナ：ニジェール・コンゴ語族クワ語派）では、wɔ が所有表現にも存在表現にも使われる。また、wɔ を用いた所有／存在文は、(1), (2) のように意味を変えずに構文交替が可能である。

所有文： 所有者 wɔ 被所有物

存在文： 存在物 wɔ 場所

- (1) a. ɔ=wɔ                      fié=nó.  
3SG.SUB=have    house=DEF  
b. efié=nó            wɔ=no.  
house=DEF    exist=3SG.OBJ  
「彼はその家を所有している」
- (2) a. ɔ=wɔ                      abɔdwesé.  
3SG.SUB=have    beard  
b. abɔdwesé    wɔ    ne=hó.  
beard    exist    3SG.POSS=body  
「彼には髭がある」

ただ、常に構文交替が可能であるわけではなく、可能であっても条件があったり、どちらかの構文がより自然であったりする。本発表では、さまざまな所有・存在表現を提示し、構文選択がどのような条件によるか、どのような場合に構文交替が可能か、見ていく。データの収集にあたっては、風間（2020）の「所有・存在表現」の調査票を用い、必要に応じて項目を追加、変更した。調査はアカン語アサンテ方言を母語とする 30 歳代の男性（アシャンティ州マンボン出身）に協力いただいた。

1. データ

以下、所有・存在を表す文を項目別に見ていく。それぞれインフォーマントが提供した順、つまり自然性が高いものから順に提示する（【 】 の分類は風間（2020）による）。

【一体的（譲渡不可能的）な、恒常的な所有(1)】

- (3) ne=aniwámmá    ye    brúu.  
3SG.POSS=eye COP    blue  
「彼の目は青い」
- (4) ɔ=wɔ                      aniwámmá    brúu.  
3SG.SUB=have eye            blue  
「彼は青い目を持つ」

- (5) aniwámmá brúu wɔ ne=hǒ.  
 eye blue exist 3SG.POSS=body  
 「彼は青い目がある」

(3)の形容詞文が最も自然だが、(4),(5)のように所有文、存在文も可能である。

【一体的な、恒常的な所有(2)】

- (6) ni=tírínwíí wa.  
 3SG.POSS=hair be.long  
 「彼の髪は長い」
- (7) ni=tírínwíí ye téntén.  
 3SG.POSS=hair COP long  
 「彼の髪は長い」
- (8) nwíí téntén wɔ ne=hǒ.  
 hair long exist 3SG.POSS=body  
 「彼は長い髪がある」
- (9) ɔ=wɔ tírí!nwíí téntén.  
 3SG.SUB=have hair long  
 「彼は長い髪(かつら、付け毛など)を持っている」

最も自然なのは、動詞文(6)、形容詞文(7)である。(8)のように、存在文も可能である。しかし、地毛の意味では所有文は不適格である(9)。

- (10) ɔ=wɔ tírí!nwíí.  
 3SG.SUB=have hair  
 「彼は髪が多い」
- (11) tírí!nwíí wɔ ne=hǒ.  
 hair exist 3SG.POSS=body  
 「彼は髪が多い」

修飾語がないと、所有文、存在文とも「(普通の人よりも)毛が多い」など特別な意味になる。

【非普通所有物】

- (12) ɔ=wɔ abɔdwesé.  
 3SG.SUB=have beard  
 「彼は髭を持つ」

- (13) abɔdwesé wɔ ne=hó.  
 beard exist 3SG.POSS=body  
 「彼は髭がある」

非普通所有物では、修飾語がなくとも所有文、存在文両方が可能。

【慣用句的表現】

- (14) ɔ=wɔ aní.  
 3SG.SUB=have eye  
 「彼は目がある（千里眼）」
- (15) aní wɔ ne=hó.  
 eye exist 3SG.POSS=body  
 「目が彼にある（監視されている／妬まれているなど）」
- (16) ɔ=wɔ asó.  
 3SG.SUB=have ear  
 「彼は耳がある（地獄耳）」
- (17) \*asó wɔ ne=hó.  
 ear exist 3SG.POSS=body
- (18) ɔ=wɔ tírí.  
 3SG.SUB=have head  
 「彼は頭がある（頭がいい）」
- (19) \*etírí wɔ ne=hó  
 head exist 3SG.POSS=body
- (20) ɔ=wɔ tekremá.  
 3SG.SUB=have tongue  
 「彼は舌がある（口が上手い）」
- (21) tekremá wɔ ne=hó.  
 tongue exist 3SG.POSS=body  
 「舌が彼にある（人が彼の噂をしている）」
- (22) ɔ=wɔ anó  
 3SG.SUB=have mouth  
 「彼は口がある（自慢屋）」
- (23) anó wɔ ne=hó.  
 mouth exist 3SG.POSS=body  
 「彼に口がある（悪口を言われている）」
- (24) ɔ=wɔ kokóó.  
 3SG.SUB=have heart  
 「彼は心がある（短気）」

- (25) \*akoma wo ne=hó.  
heart exist 3SG.POSS=body

慣用的表現には、目、耳、体、頭、舌、心／胸を使った表現が得られた。いずれも所有文のみで、同じ意味で構文交替はできない。

【側面語のある表現(1)】

- (26) ɔ=a-dí mféé aduonú.  
3SG.SUB=PRF-eat years 20  
「彼は20歳だ」
- (27) ɔ=wo mféé aduonú.  
3SG.SUB=have years 20  
「彼は20歳だ」
- (28) \*mfeɛ aduonu wo ne=hó  
years 20 exist 3SG.POSS=body

(26)のように動詞文が最も自然だが、(27)のように所有文も可能。しかし存在文は不適格。

【側面語のある表現(2)】

- (29) ne=yám ye.  
3SG.POSS=stomach be.good  
「彼は優しい性格だ」
- (30) ne=súbán ye.  
3SG.POSS=character be.good  
「彼は良い性格だ」
- (31) ɔ=wo akoma/subán pá.  
3SG.SUB=have heart/character good  
「彼は良い性格だ」
- (32) akoma pa {wo ne=mu/da ne=yám}.  
heart good exist 3SG.POSS=inside/lie 3SG.POSS=stomach  
「彼は良い性格だ」
- (33) suban pá wo ne=hó.  
character good exist 3SG.POSS=body  
「彼は良い性格だ」

(29), (30)のような動詞文が最も自然だが、所有文(31)、存在文(32), (33)も可能である。

【側面語のある表現(3)】

- (34) ɔ=wa.  
3SG.SUB=be.long  
「彼は背が高い」
- (35) ɔ=yɛ            tɛntɛn.  
3SG.SUB=COP long  
「彼は背が高い」
- (36) \*ɔ=wɔ            tenten.  
3SG.SUB=have length
- (37) tɛntɛn wɔ    ne=hɔ̃.  
length exist 3SG.POSS=body  
「彼は長身の素質がある（遺伝的に）」

「背が高い」は動詞文(34)、形容詞文(35)が最も自然で、所有文、存在文では言えない。存在文は「背が高い」ではなく「遺伝的に長身になりやすい」という意味になる。

【側面語のある表現(4)、属性数量詞構文】

- (38) ne=tɛntɛné        yɛ    anamón/basafá    nsíá né    !fá.  
3SG.POSS=length COP feet                    6    and half  
「彼は（背が）6フィート半ある」
- (39) ɔ=wɔ            (\*tɛntɛné) anamón/basafá    nsíá né    !fá.  
3SG.SUB=have length feet                    6    and half  
「彼は（背が）6フィート半ある」
- (40) \*anamón/basafá nsíá né    !fá    wɔ    ne=hɔ̃  
feet                    6    and half exist 3SG.POSS=body
- (41) ne=mú!dúró        yɛ    pónso aduosíá    né    !fá.  
3SG.POSS=weight COP pound 60            and half  
「彼は体重が60ポンド半ある」
- (42) ɔ=wɔ            pónso aduosíá    né    !fá.  
3SG.SUB=have pound 60            and half  
「彼は（体重が）60ポンド半ある」
- (43) \*pónso aduosíá    né    !fá    wɔ    ne=hɔ̃.  
pound 60            and half exist 3SG.POSS=body

(38),(41)のような名詞文が最も自然だが、(39),(42)のように所有文も可能である。しかし、存在文は言えない。

【側面語のある表現(5)】

- (44) ɛbóó=nó yɛ krúkrúwá.  
stone=DEF COP round  
「その石は丸い形をしている」
- (45) nwómá=nó bóó yɛ den.  
book=DEF price COP hard  
「その本の値段が高い」
- (46) \*nwómá=nó wɔ ɛbóó den.  
book=DEF have price hard
- (47) \*ɛbóó dɛn wɔ nwómá=nó.  
price hard exist book=DEF

形容詞文でしか表せず(44), (45)、所有・存在文では言えない(46), (47)。

【属性】

- (48) ɔ=wɔ ɔdómákyedéé  
3SG.SUB=have gift  
「彼には才能がある」
- (49) ɔdómákyedéé wɔ ne=só.  
gift exist 3SG.POSS=top  
「才能が彼にはある」
- (50) ɔ=wɔ adóm.  
3SG.SUB=have grace  
「彼は魅力がある」
- (51) adóm wɔ ne=só.  
grace exist 3SG.POSS=top  
「魅力が彼にはある」

所有文、存在文いずれも可能である。

【一時的属性】

- (52) ɔ=yaré.  
3SG.SUB=be.ill  
「彼は病気だ」
- (53) ɔ=wɔ yarée.  
3SG.SUB=have illness  
「彼は病気を持つ」

- (54) yarée wɔ ne=hó  
 illness exist 3SG.POSS=body  
 「彼は病気がある」

「病気だ」は動詞文が最も自然だが(52)、所有文(53)、存在文(54)も可能。

- (55) ne=hó á-yɛ hyé.  
 3SG.POSS=body PRF-become hot  
 「彼は熱がある」

- (56) ne=hó á-dɔ.  
 3SG.POSS=body PRF-increase  
 「彼は熱がある」

- (57) ɔ=wɔ ahoɔhyéé.  
 3SG.SUB=have fever  
 「彼は熱がある」

- (58) ahoɔhyéé wɔ ne=só/\*hó.  
 fever exist 3SG.POSS=top/\*body  
 「彼は熱が出やすい」

「熱がある」は、形容詞文(55)、動詞文(56)が最も自然で、所有文は言えるが(57)存在文は「熱がある」の意味では不適格(58)。

#### 【衣服等(1)】

- (59) ɔ=hyɛ ataade fúfúó.  
 3SG.SUB=wear clothes white  
 「彼は白い服を着ている」

- (60) ataade fúfúó hyɛ=no.  
 clothes white wear=3SG.OBJ  
 「彼は白い服を着ている」

- (61) \*ɔ=wɔ ataadeɛ.  
 3SG.SUB=have clothes

- (62) \*ataadeɛ wɔ ne=hó.  
 clothes exist 3SG.POSS=body

- (63) ɔ=wɔ ataadéé sa ne=kóóm.  
 3SG.SUB=have clothes hang 3SG.POSS=neck  
 「彼は首周りに服をかけている」

- (64) ataadéé wɔ/gu ne=kóóm.  
 clothes exist/put 3SG.POSS=neck  
 「彼は首周りに服をかけている」

服については、着用動詞 hyɛ を用いた動詞文しか言えない（構文交替も可能。(59, 60)）。着用でなく首にかけるなどであれば、所有文が可能である(63, 64)。

- (65) ɔ=wɔ asomadéé wɔ ne=asó mú.  
 3SG.SUB=have earring in 3SG.POSS=ear in  
 「彼は耳にイヤリングをしている」

- (66) asomadéé wɔ ne=asó mú.  
 earring exist 3SG.POSS=ear in  
 「イヤリングは彼の耳にある」

- (67) ɔ=wɔ dúku kata ni=tí.  
 3SG.SUB=have scarf put 3SG.POSS=head  
 「彼女は頭にスカーフをしている」

- (68) dúku wɔ/bɔ ni=tí.  
 scarf exist/hit 3SG.POSS=head  
 「スカーフは彼女の頭にある」

一方、イヤリング、スカーフは、所有文(65, 67)、存在文(66, 68)が可能である。

#### 【衣服等(2)】

- (69) ɔ=hyɛ ahwehweníwá.  
 3SG.SUB=wear glasses  
 「彼はメガネをかけている」
- (70) \*ɔ=wɔ ahwehweníwá.  
 3SG.SUB=have glasses

メガネは着用動詞 hyɛ を用いた動詞文しか言えない。

#### 【親族の所有(1)】

- (71) ɔ=a-waré.  
 3SG.SUB=PRF-marry  
 「彼は結婚している」
- (72) ɔ=wɔ yéré.  
 3SG.SUB=have wife  
 「彼には妻がいる」

(73) \*yere (=no) wɔ=no.  
wife (=DEF) exist=3SG.OBJ

(74) ɔbáá=nó wɔ=no.  
woman=DEF exist=3SG.OBJ  
「その女は彼にある (ガールフレンド)」

「妻帯」は動詞文(71)と併せて所有文は言えるが(72)、存在文は言えない(73)。「女」であれば限定接語をつければ存在文が言えるが、「ガールフレンド」のような意味になる(74)。

(75) ɔ=wɔ bá.  
3SG.SUB=have child  
「彼は子供を持つ」

(76) \*ɔbá wɔ=no.  
child exist=3SG.OBJ

(77) ɔbá=nó wɔ=no.  
child=DEF exist=3SG.OBJ  
「その子は彼にある」

「子」も所有文は言えるが(75)、存在文は定でなければならない(77)。

#### 【親族の所有(2)】

(78) ɔ=wɔ mmá meensá.  
3SG.SUB=have children 3  
「彼には3人子供がいる」

(79) \*mmá meensá wɔ=no.  
children 3 exist=3SG.OBJ

(80) mmá meensá=nó wɔ=no.  
children 3=DEF exist=3SG.OBJ  
「その3人子供は彼のだ」

数量詞がつく場合も同様。所有文は言えるが(78)、存在文では限定接語が必須である(80)。

#### 【普遍的な事実】

(81) ɔsebó hó wɔ nnwíí.  
leopard body have hair  
「ヒョウには毛がある」

- (82) nnwíí wɔ ɔsebó hǒ.  
 hair exist leopard body  
 「ヒョウには毛がある」

所有文(81)存在文(82)いずれも可能。

【ともに無生物、含有物】

- (83) anomnómdéé=nó mú wɔ nsá.  
 drink=DEF inside have alcohol  
 「その飲み物にはアルコールが入っている」
- (84) nsá wɔ anomnómdéé=nó mú.  
 alcohol exist drink=DEF inside  
 「その飲み物にはアルコールが入っている」

所有文(83)存在文(84)いずれも可能。

【もっとも一般的な所有、やや恒常的】

- (85) ɔ=wɔ síká.  
 3SG.SUB=have money  
 「彼はお金を持っている」
- (86) síká wɔ ne=hǒ.  
 money exist 3SG.POSS=body  
 「彼はお金を持っている」

所有文(85)存在文(86)いずれも可能。どちらも金持ち／現在所持金がある、のいずれの意味にもなる。

【所有、やや恒常的、所有物は有生・家畜】

- (87) wó=wɔ krámán?  
 2SG.SUB=have dog  
 「お前のところに犬がいるか？」
- (88) krámán=nó wɔ=wɔ?  
 dog=DEF exist=2SG.OBJ  
 「その犬はお前のか？」

所有文(87)は可能だが、存在文は限定接語が必須である(88)。

【一時的携帯物】

- (89) wó=wɔ tweré!dúá?  
 2SG.SUB=have pencil  
 「あなたは鉛筆を持っているか？」
- (90) tweré!dúá=nó wɔ=wɔ?  
 pencil=DEF exist=2SG.OBJ  
 「その鉛筆はあなたのか？」

所有文は可能だが(89)、存在文は限定接語が必須である(90)。

【抽象的・一時的所有物】

- (91) ni=tírí yɛ.  
 3SG.POSS=head good  
 「彼は運がいい」
- (92) me=wɔ adwen/nsusuyɛ pá.  
 1SG.SUB=have thought good  
 「私に良い考えがある」
- (93) adwen/nsusuyɛ pá wɔ mi=tírí mú.  
 thought good exist 1SG.POSS=head in  
 「私に良い考えがある」

「運がいい」は形容詞文しか言えない(91)。「良い考えがある」は所有文(92)、存在文(93)とも可能。

【恒常的存在>状態／性質】

- (94) ahá yɛ abótán só.  
 here COP stone top  
 「ここは石が多い」
- (95) ɛ=yɛ abótán ásásé.  
 INAN.SUB=COP stone land  
 「ここは石が多い」
- (96) abótán bébrée wɔ há.  
 stone many exist here  
 「ここは石が多い」
- (97) ahá wɔ abótán bébrée.  
 here have stone many  
 「ここは石が多い」
- (98) nsúó bébrée wɔ há.  
 water many exist here  
 「ここは雨が多い」

- (99) ahá wɔ nsúó bébrée.  
 here have water many  
 「ここは雨が多い」

名詞文(94, 95)と併せて、存在文(96, 98)、所有文(97, 99)も可能。

【非恒常的存在と数量】

- (100) nkonwá (meensá) wɔ dán=nó mú.  
 chairs 3 exist room=DEF in  
 「その部屋には椅子が(3つ)ある」
- (101) edán=nó mú wɔ nkonwá (meensá).  
 room=DEF in have chairs 3  
 「その部屋には椅子が(3つ)ある」

存在文(100)、所有文(101)いずれも可能。なお、数量詞は省略可。

【存在・存在が新情報】

- (102) atéré da/wɔ epónó=nó só.  
 spoon lie/exist table=DEF top  
 「テーブルの上にスプーンがある」
- (103) epónó=nó só wɔ(\*da) atéré.  
 table=DEF top have spoon  
 「テーブルの上にスプーンがある」

アカン語は存在の様態によっていくつかの動詞を使い分ける。da はテーブルと長い側面が接していることを含意し、一方 wɔ は様態を含意しない。存在文(102)、所有文(103)いずれも可能 (da の場合は構文交替できない)。

【所在・場所が新情報】

- (104) atéré=nó da/wɔ epónó=nó só.  
 spoon=DEF lie/exist table=DEF top  
 「そのスプーンはテーブルの上にある」
- (105) \*epónó=nó só wɔ/da atéré=nó.  
 table=DEF top have/lie spoon=DEF

存在物が定である場合、存在文は言えるが(104)、所有文は言えない(105)。

【できごとの生起】

- (106) egyá tɔ-ɔ yɛn=súkúu mú nnó!rá.  
 fire fall-PST 2PL.POSS=school in yesterday  
 「昨日、学校で火事があった」
- (107) egyá hyé!hyéé si-i yɛn=súkúu mú nnó!rá.  
 fire hot happen-PST 2PL.POSS=school in yesterday  
 「昨日、学校で火事があった」
- (108) na egyá hyé!hyéé wɔ yɛn=súkúu mú nnó!rá.  
 then fire hot exist 2PL.POSS=school in yesterday  
 「昨日、学校で火事があった」
- (109) na yɛn=súkúu mú wɔ egyá hyé!hyéé nnó!rá.  
 then 2PL.POSS=school in have fire hot yesterday  
 「昨日、学校で火事があった」

「火事があった」は動詞文が最も自然だが(106, 107)、存在文(108)、所有文(109)も可能。

- (110) me=wɔ nnéémáyé/adééyé ɔkyéná.  
 1SG.SUB=have things.to.do tomorrow  
 「私は明日用事がある」
- (111) adé!yó/(\*nnéémáyé)=nó wɔ=me ɔkyéná.  
 things=DEF exist=1SG.OBJ tomorrow  
 「明日用事が私にはある」

用事は所有文は言えるが(110)、存在文は限定接語が必須(111)。

#### 【実在文】

- (112) ɔsá!mán n-ní n!nípá tená!béá.  
 ghost NEG-exist human place  
 「お化けはこの世にいない」
- (113) nnípá téná!béá n-ní ɔsá!mán.  
 human place NEG-have ghost  
 「この世にお化けはいない」

wɔ は否定形では補充形 di となる。存在文(112)、所有文(113)いずれも可能。

#### 【絶対存在文(1)】

- (114) ebí ká Twii ká!sá na ebí nsó n-ká.  
 someone speak Twi language and someone also NEG-speak  
 「アカン語を話す人もいれば話さない人もいる」

動詞文で表し(114)、所有文、存在文では表現しない。

【絶対存在文(2)】

- (115) nnipá fò!fóró wɔ hó áa wɔ=ká borofo pápá séne=me.  
people new exist there REL 3PL.SUB=speak English well surpass=1SG.OBJ  
「私より英語ができる人は(ほかに/もっと)います」
- (116) ɛhɔ wɔ nnipá fò!fóró áa wɔ=ká borofo pápá séne=me.  
there have people new REL 3PL.SUB=speak English well surpass=1SG.OBJ  
「私より英語ができる人は(ほかに/もっと)います」

存在文(115)、所有文(116)いずれも可能。

【抽象的なことの所有・発話内効力のある文】

- (117) me=wɔ biibí áa me=pé sé wó=!yé.  
1SG.SUB=have something REL 1SG.SUB=like COMP 2SG.SUB=do  
「あなたにお願いしたいことがあります」
- (118) biibí áa me=pé sé wó=!yé wɔ mi=tírí mú.  
something REL 1SG.SUB=like COMP 2SG.SUB=do exist 1SG.POSS=head in

所有文(117)、存在文(118)とも可能である。

## 2. まとめ

以上提示したデータは、大きく以下①～⑤に分類できる。④所有文・存在文いずれも可能なものは、存在文がより自然なもの(存・所)、所有文がより自然なもの(所・存)が区別される。この順に並べ替えたものが表1になる。

- ① 形容詞文(A)、動詞文(V)、名詞文(N)でしか表せないもの
- ② 所有文(所)のみ可能なもの
- ③ 所有文は可能だが存在文(存)は定でなければならないもの
- ④ 所有文・存在文いずれも可能なもの
- ⑤ 存在文のみ可能なもの

表1 所有文・存在文の分布

①	44	その石は丸い形をしている	A
	45~47	その本は値段が高い	A
	91	彼は運がいい	V
	34~37	彼は背が高い	A/V
	59~64	彼は白い服を着ている	V
	69~70	彼は眼鏡をかけている	V
	114	アカン語を話す人もいれば話さない人もいる	V
②	55~58	彼は熱がある	V/所
	71~74	彼は妻がいる	V/所
	26~28	彼は20歳だ	V/所
	38~43	彼は(背が)6フィート半ある	N/所
	14~25	彼には目がある(千里眼)	所
③	87~88	お前のところに犬がいるか?	所・(存 no)
	89~90	あなたはペンを持っているか	所・(存 no)
	75~77	彼は子供がいる	所・(存 no)
	78~80	彼は3人子供がいる	所・(存 no)
	110~111	私は明日用事がある	所・(存 no)
④-1	12~13	彼には髭がある	所・存
	48~51	彼は才能がある	所・存
	65~68	彼はイヤリング/スカーフをしている	所・存
	81~82	ヒョウは毛がある	所・存
	83~84	その飲み物にはアルコールが入っている	所・存
	85~86	彼はお金を持っている	所・存
	92~93	私に良い考えがある	所・存
	117~118	ちょっとあなたにお願いがあります	所・存
	3~5	彼の目は青い。	A/所・存
	29~33	彼は良い性格だ	V/所・存
	52~54	彼は病気だ	V/所・存
④-2	94~97	ここは石が多い	C/存・所
	102~103	テーブルの上にスプーンがある	V(da)/存・所
	106~109	昨日学校で火事があった	V/存・所
	98~99	ここは雨が多い	存・所
	100~101	その部屋には椅子が(3つ)ある	存・所
	115~116	私より英語ができる人はいます	存・所
	112~113	お化けはこの世にいない	存・所
⑤	6~8	彼の髪は長い	V/A/存
	104~105	そのスプーンはテーブルの上にある	存

まず主体の属性、状態などを表す場合、もっぱら動詞や形容詞文で表されるか、動詞、形容詞文で表すのが最も自然である(34, 35)。また着用専用の動詞があるため、「服を着る」「眼鏡をかける」は動詞文のみで表される(59, 60)。

- (34) ɔ=wa.  
3SG.SUB=be.long  
「彼は背が高い」
- (35) ɔ=yɛ            tɛntɛn.  
3SG.SUB=COP long  
「彼は背が高い」
- (59) ɔ=hyɛ            ataade fúfúó.  
3SG.SUB=wear clothes white  
「彼は白い服を着ている」
- (60) ataade fúfúó    hyɛ=no.  
clothes white wear=3SG.OBJ  
「彼は白い服を着ている」

所有／存在が恒常的であれ一時的であれ、また被所有物／存在物の性質に関わらず、所有者／存在場所が有生の場合所有文が自然であり、無生であれば存在文が自然である。「目がある（千里眼）」など慣用的表現は所有文でしか言えない。所有者／存在場所が有生で被所有物／存在物との一体性が高い場合、存在文も可能である（髭、才能、毛、青い目）(12, 13)。「考え」のような抽象的なものや「病気」のような一時的属性でメタファー的表現として存在文が可能であるものもある（他に「お願い」、「良い性格」など）(92, 93)。存在文で存在場所が有生で存在物が接している場合、具体的な身体部位が示されなくてはならない（身体部位に接触しない場合身体部位が示されない(77), (1)）。

- (12) ɔ=wɔ            abɔdwesé.  
3SG.SUB=have beard  
「彼は髭を持つ」
- (13) abɔdwesé    wɔ    ne=hó.  
beard    exist    3SG.POSS=body  
「彼は髭がある」
- (92) me=wɔ            adwen/nsusuye    pá.  
1SG.SUB=have thought            good  
「私に良い考えがある」
- (93) adwen/nsusuye    pá    wɔ    mi=tírí            mú.  
thought            good exist    1SG.POSS=head in  
「私に良い考えがある」
- (77) ɔbá=nó            wɔ=no.  
child=DEF            exist=3SG.OBJ  
「その子は彼にある」

- (1) efié=nó wɔ=no.  
house=DEF exist=3SG.OBJ  
「彼はその家を所有している」

「長い髪」は所有文だと、付け毛を持って／付けているような感じになる。

- (8) nwíí tén-tén wɔ ne=hó.  
hair long exist 3SG.POSS=body  
「彼は長い髪がある」
- (9) ɔ=wɔ tírí!nwíí tén-tén.  
3SG.SUB=have hair long  
「彼は長い髪（かつら、付け毛など）を持っている」

一方、一時的属性「熱」(57, 58)、属性数量詞「20 歳」(27, 28)「6 フィート半」は存在文では言えない（意味的違いがある）。

- (57) ɔ=wɔ ahoohyéé.  
3SG.SUB=have fever  
「彼は熱がある」
- (58) ahoohyéé wɔ ne=só/\*hó.  
fever exist 3SG.POSS=top/\*body  
「彼は熱が出やすい」
- (27) ɔ=wɔ mféé aduonú.  
3SG.SUB=have years 20  
「彼は 20 歳だ」
- (28) \*mfeɛ aduonu wɔ ne=hó  
years 20 exist 3SG.POSS=body

人間、動物、身につけない物など存在物と場所との一体性がない場合、存在文では存在物が定でなければならず（場所新情報）、所有文と意味的違いが生じる。これらの存在文では具体的身体部位は示さない。

- (75) ɔ=wɔ bá.  
3SG.SUB=have child  
「彼は子供を持つ」
- (76) \*ɔbá wɔ=no.  
child exist=3SG.OBJ

- (77) obá=nó            wɔ=no.  
 child=DEF        exist=3SG.OBJ  
 「その子は彼にある」

存在場所（所有者）が無生の場合は、存在物／被所有物が有生であれ無生であれ、存在文が最も自然だが、所有文と存在文の交替が可能である。

- (98) nsúó bébrée wɔ há.  
 water many exist here  
 「ここは雨が多い」

- (99) ahá wɔ nsúó bébrée.  
 here have water many  
 「ここは雨が多い」

- (100) nkonwá (meensá) wɔ dán=nó mú.  
 chairs 3 exist room=DEF in  
 「その部屋には椅子が（3つ）ある」

- (101) edán=nó mú wɔ nkonwá (meensá).  
 room=DEF in have chairs 3  
 「その部屋には椅子が（3つ）ある」

存在文のみ可能なものは、「そのスプーンはテーブルの上にある」のみであった。

- (104) atéré=nó da/wɔ epónó=nó só.  
 spoon=DEF lie/exist table=DEF top  
 「そのスプーンはテーブルの上にある」

- (105) \*epónó=nó só wɔ/da atéré=nó.  
 table=DEF top have/lie spoon=DEF

まとめると、wɔを使った所有・存在表現で基本的に所有文と存在文の交替が可能である。基本的に所有者／存在場所が有生の場合所有文、無生であれば存在文を用いるが、所有者と被所有物との関係であると同時に存在物と具体的存在場所の関係でもあるとみなされるとき、所有文、存在文の交替が可能になると考えられる。メタファー的表現も見られ、抽象的物事をどう捉えるかに関わっていると思われる。③で存在物は定でなければならぬこと、⑤で被所有物が定にはなり得ないことについて、構文交替には情報構造が関わっていると考えられる。これについては今後調べていきたい。

#### 参考文献

風間伸次郎 (2020) 「特集「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」『語学研究所論集』第25号, pp.139-171.

## 無文字社会のテキスト

梶 茂樹

ことばの科学研究センター研究員

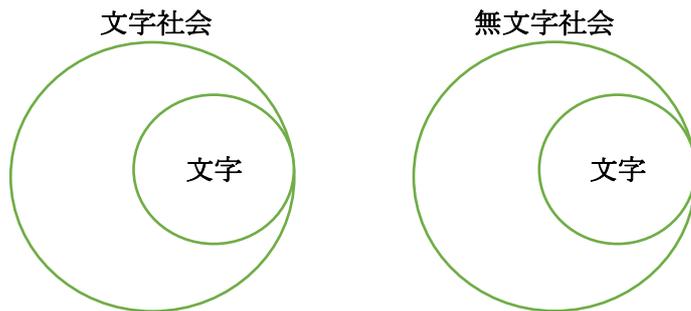
### 1. はじめに

世界にもし7000の言語があるとしたら、恐らくその9割は無文字言語であろうと思われる。無文字社会にも文学はあり、テキストはある。書かれないだけである。発表者はアフリカで言語調査をしながら、たんに語彙や文法だけでなくテキストにも興味を寄せ、様々な口承文学を文字化してきた。民話、伝承、歌、諺、謎々、人名、地名、太鼓メッセージ、タブー表現などである。言語学者は、テキストの言語表現にまず注目するが、それが表す内容も興味深いものである。

本発表では無文字社会のテキストの特徴を取り上げ、ウガンダ西部のニョロ語社会のタブー表現を中心に、その論理とそれが果たす社会的役割について考察する。

### 2. 無文字社会とは

無文字社会とは文字社会から文字を除いた社会のことだろうか。無文字社会は文字がなくても生きてきた。まず、彼らの伝統知の再確認から始めなければならない。



### 3. 無文字社会の文学・テキストの種類

民話（昔話）、伝承、歌、太鼓メッセージ、タブー表現、諺、謎々、地名、人名などなど。

### 4. 無文字社会の文学・テキストの特色

無文字社会はすべて記憶に頼っているかと言えばそうではない。テキストの形式を整え、記録し、社会的役割を果たそうとする。

#### 4.1. 人名はメッセージだ：コンゴ・テンボ族の例

(1) a. málirá  
 má-lír-á  
 NPr6-cry-FV<sup>1</sup>  
 「葬式、喪」

b. ndáménaa  
 n-ta-á-mén-a-a  
 I-Neg-RemPst-know-PreFin-FV  
 「私は知らなかった」

<sup>1</sup>略語。Aug: augment（冠詞の一種）、NPr: nominal prefix（名詞類接頭辞）、PPr: pronominal prefix（代名詞類接頭辞）、Neg: negative（否定辞）、RemPst: remote past（遠過去）、Pfin: prefinal（動詞前語尾）、FV: final vowel（動詞語尾母音）、Perf: perfective（完了語尾）、Subj: subjective（接続法）、SubRel: subject relative（主語関係節）、ObjRel: object relative（目的語関係節）、Clit: clitic（接語）。ニョロ語には名詞のクラスがある。NPrなどのあとの数字は名詞のクラス番号である。

名前は文字であり、メッセージである。名前をメッセージと見た場合、名前をメッセージの発信者と受信者の関係で分析できる。

- a. 名前は文字である。文字の機能：時間的・空間的制限を打ち破る。記録媒体は子供
- b. 名前をメッセージと見た場合、名前をメッセージの発信者と受信者の関係で分析できる。(梶 1985, 2012 など)

## 5. ウガンダ西部のニョロ語社会のタブー表現

### 5.1. タブーと不吉

日本には迷信と呼ばれるものが多くあり、日本民俗学では一括して俗信として記述し内部分類は行われていない(板橋 1998 など)。

ニョロ語にはタブーに関連する用語として(2)の3つがある(梶 2019 など)。

- (2) a. ihâno (sg.), amahâno (pl.)                   タブー、禁止事項、禁忌
- b. ekisirâ:ni (sg.), ebisirâ:ni (pl.)       不吉なこと、予兆、前兆
- c. omuzîro (sg.), emizîro (pl.)           トーテム

### 5.2. タブー表現の構造

タブー表現には命令、違反、結果、理由の4つの節があり、表現されるのは多くは命令のみである。そして表現はされないが、誰もが違反を犯すと怖い結果が生じることを知っている。これがタブー表現の特徴である。なぜそのような命令、違反、結果があるかと言えば、命令の本当の理由があり、これを隠すためである。

#### (3) 言語分析

- a. Omwó:dzó t'aiká:rrá haihêga.
- b. o-mu-odžo                   ti   a-ikarr-a    ha-i-hega.
- c. Aug1-NPr1-boy           not   he-sit-FV   NPr16-NPr5-cooking.stone
- d. 男の子はカマドに腰をかけてはいけない。

#### (4) 論理分析

- a. 命令：男の子はカマドに腰をかけてはいけない。
- b. 違反：男の子がカマドに腰をかける。
- (b'. 違反条件：もし男の子がカマドに腰をかけると、)
- c. 結果：父親が死ぬ。
- d. 理由：男の子が火傷をする。

#### (5) タブー表現の論理構造

- a. 命令 (禁止であることが多い)
- b. 違反 (違反条件として表現されることが多い)
- c. 結果 (不幸が生じるのが普通)
- d. 理由 (決して述べられない)

### 5.3. 肯定命令と否定命令

タブー表現では、命令として、圧倒的に「～するな」という否定命令が多い。しかし肯定命令表現もしばしば現れる。(6)(7)参照。これを(8)のように否定命令にすることも可能。

- (6) a. Omwisíkí aika:rra há:nsî akubíre amagûru.
- b. o-mu-isiki                   a-ikarr-a    ha-n-si                   a-kub-ire
- c. Aug1-NPr1-girl   she-sit-FV   NPr16-NPr9-ground   she-fold-Perf [SubjRel]  
          a-ma-guru.

#### Aug6-NPr6-leg

- d. 女の子は地面に座る時、脚を折り曲げなければならない。
- (7) a. 肯定命令：女の子は地面に座る時、脚を折り曲げなければならない。  
b. 違反：女の子が地面に座る時、脚を折り曲げない。  
(b'. 違反条件：もし女の子が地面に座る時、脚を折り曲げないならば、)  
c. 結果：その女の子は不妊になる。  
d. 理由：女の子が地面に座る時、脚を折り曲げないと、股の間から下着や局部が見えかねない。これは避けるべきだ。
- (8) a. 否定命令 (=禁止)：女の子は地面に座る時、脚を伸ばして座ってはいけない。  
b. 違反：女の子が地面に座る時、脚を伸ばして座る。  
(b'. 違反条件：もし女の子が地面に座る時、脚を伸ばして座ったら、)  
c. 結果：その女の子は不妊になる。  
d. 理由：女の子が地面に座る時、脚を折り曲げないと、股の間から下着や局部が見えかねない。これは避けるべきだ。

#### 5.4. 命令あるいは違反と結果

タブーは基本的に行為を禁止するわけであるから、表現として禁止表現になるのは当然と言える。数は多くないが、命令（禁止）が表現されず、違反と結果だけが示されるものもある。（相補分布）

- (9) a. Obu ogobézá ow'omukâgo, ozimba ê:nda.  
b. obu o-gobez-a o-wa o-mu-kago, o-zimb-a  
c. when you(sg.)-betray-FV Aug1-of1 Aug3-NPr3-pact.of.blood you(sg.)-swell-FV  
e-n-da.  
Aug9-NPr9-belly
- d. もしあなたが、血の契りをした友人を裏切ると、あなたのお腹が脹れる。
- (10) a. 命令：あなたは、血の契りをした友人を裏切ってはいけない。  
b. 違反：あなたが血の契りをした友人を裏切る。  
(b'. 違反条件：もしあなたが血の契りをした友人を裏切ると、)  
c. 結果：あなたのお腹が脹れる。  
d. 理由：血の契りで結ばれた友人は絶対裏切ってはいけない。

アフリカは命令を表すものが多いが、日本は違反と結果を示すものが多い。

- (11) 夜中に口笛を吹くと、鬼が来る。(日本)
- a. 命令：夜中に口笛を吹くな。  
b. 違反：夜中に口笛を吹く。  
(b'. 違反条件：もし夜中に口笛を吹くと、)  
c. 結果：鬼が来る。  
d. 理由：夜は暗くてよく見えないが、口笛を吹くとそこに家があることがわかる。そして、それが泥棒や強盗を引き寄せることになる。

#### 5.5. タブーでない禁止事項

怖い結果がなく、本当の理由が述べられる。

- (12) 非タブー表現：寝る前に水をたくさん飲むと、寝小便をする。(日本)
- a. 命令：寝る前に水をたくさん飲むな。  
b. 違反：寝る前に水をたくさん飲む。  
(b'. 違反条件：もし寝る前に水をたくさん飲むと、)  
c. 結果：なし

- d. 理由：寝小便をするから。

## 6. 不吉なこと

ekisirâ:ni 「不吉なこと、予兆、前兆」はタブーとよく似ている。しかし不吉の場合は、自分がコントロールできないことが生じ、その対処法を示す。またタブー表現とは異なって、「理由」がない。

- (13) a. Obu ó:bá n'ò:rubátá orugê:ndo, embéba t'efwanganízá omuhâ:nda.  
 b. obu o-ba-a ni o-rubat-a o-ru-gendo, e-m-beba  
 c. when you(sg.)-be-FV Prog you(sg.)-walk-FV Aug11-NPr11-journey Aug9-NPr9-rat  
 ti e-fwanganiz-a o-mu-handa.  
 not it9-cross-FV Aug3-NPr3-road  
 d. あなたが旅行に出かけようとする時、ネズミが道を横切ってはならない。
- (14) a. 命令：あなたが旅行に出かけようとする時、ネズミが道を横切ってはならない。  
 b. 違反：あなたが旅行に出かけようとする時、ネズミが道を横切る。  
 (b'. 違反条件：もしあなたが旅行に出かけようとする時、ネズミが道を横切ったら、)  
 c. 結果：あなたは事故に遭う。  
 d. 理由：なし(?)

## 7. わかりやすいタブー表現とわかりにくいタブー表現

- (15) a. Omusáidza t'apá:rá omumusírí gw'ebitakúlí.  
 b. o-mu-saidza ti a-ja:r-a o-mu-mu-siri gwa  
 c. Aug1-NPr1-man not he-urinate-FV Aug18-NPr18-NPr3-garden of3  
 e-bi-takuli.  
 Aug8-NPr8-sweet.potato  
 d. 男性はサツマイモ畑で小便をしてはいけない。
- (16) a. 命令：男性はサツマイモ畑で小便をしてはいけない。  
 b. 違反：男性がサツマイモ畑で小便をする。  
 (b'. 違反条件：もし男性がサツマイモ畑で小便をすると、)  
 c. 結果：男性の睾丸が脹れる。  
 d. 理由：重要な食料であるサツマイモにおしっこをかけてはいけない。

犬の例。

- (17) a. É:mbwá t'ebyá:má omukitábu ky'omû:ntu.  
 b. e-m-bwa ti e-byam-a o-mu-ki-tabu kya o-mu-ntu.  
 c. Aug9-NPr9-dog not it9-sleep-FV Aug18-NPr18-NPr7-bed of7 Aug1-NPr1-  
 person  
 d. 犬は人のベッドで寝てはならない。
- (18) a. 命令：犬があなたのベッドで寝ないように、犬を遠ざけておかなければならない。  
 b. 違反：犬があなたのベッドで寝る。  
 (b'. 違反条件：もし犬があなたのベッドで寝ると、)  
 c. 結果：あなたは事故に遭ったり蛇に咬まれたりする。  
 d. 理由：犬は糞やネズミを食べるので、病原菌を持っている可能性があり、人のベッドという清潔に保っておかなければならないところには近づけてはならない。

女性の生理はタブー表現の大きなテーマの1つである。

- (19) a. Omwisíkí t'akámá ê:nte álí omubigéré.  
 b. o-mu-isiki ti a-kam-a e-n-te a-li  
 c. Aug1-NPr1-girl not she-milk-Fin Aug9-NPr9-cow she-is[SubjRel]  
 o-mu-bi-gere.  
 Aug18-NPr18-Npr8-foot

- d. 月経中の女性は牛の乳しぼりをしてはならない。
- (20) a. 命令：月経中の女性は牛の乳しぼりをしてはならない。  
 b. 違反：月経中の女性が牛の乳しぼりをする。  
 (b'. 違反条件：もし月経中の女性が牛の乳しぼりをする、)  
 c. 結果：牛の乳首が詰まり乳が出なくなり、牛は死ぬ。  
 d. 理由：月経中の女性に重い仕事をさせないように配慮する。

### 8. 習慣的行為のタブー化

- (21) a. Omukázi obu á:bá azáire, t'ályá é:nswâ rû:ndi enkó:lê.  
 b. o-mu-kazi obu a-ba-a a-za:r-ire, ti a-li-a  
 c. Aug1-NPr1-woman when she-is-FV she-bear-Perf not she-eat-FV  
 e-n-swa rundi e-n-ko:le.  
 Aug10-NPr10-termite or Aug10-NPr10-cowpea  
 d. 女性は出産したら（約3か月は）羽根蟻やササゲ豆を食べてはいけない。
- (22) a. 命令：女性は出産したら（約3か月は）羽根蟻やササゲ豆を食べてはいけない。  
 b. 違反：女性が出産して（約3か月以内に）羽根蟻やササゲ豆を食べる。  
 (b'. 違反条件：もし女性が出産して（約3か月以内に）羽根蟻やササゲ豆を食べたら、)  
 c. 結果：女性は腹痛を起こし、おなかが腫れる。  
 d. 理由：習慣的（本来の理由が隠されていたために分らなくなったもの）

### 9. すべては実利か

本稿での分析の特徴の1つは、タブー表現の論理分析をしながら、裏の意味を考えたことである。そうは言うけれど、本当はどうなのかということである。ただ、タブーの存在理由をすべて、実利的、機能主義的に理解できるとは思っていない。象徴論的な分析が可能かもしれない。

- (23) a. Omwisíkí t'alímá ekitû:ro.  
 b. o-mu-isiki ti a-lim-a e-ki-tu:ro.  
 c. Aug1-NPr2-girl not she-dig-FV Aug7-NPr7-burial.pit  
 d. 女性は墓穴を掘ってはならない。
- (24) a. 命令：女性は墓穴を掘ってはならない。  
 b. 違反：女性が墓穴を掘る。  
 (b'. 違反条件：もし女性が墓穴を掘ったら、)  
 c. 結果：両親が死ぬ。  
 d. 理由：習慣的(?)
- (25) a. Enkóko empâ:ngi t'ekó:ká kurúga sá:ha é:mû kuhíka sá:ha munâ:na ez'e:kírô.  
 b. e-n-koko e-m-pangi ti e-ko:k-a kuruga sa:ha e-mu  
 c. Aug9-NPr9-chicken Aug9-NPr9-cock not it9-crow-FV from hour NPr9-one  
 kuhika sa:ha mu-na:na e-za e-ki-ro.  
 till hour NPr3-eight Aug10-of10 Aug7-NPr7-night  
 d. 雄鳥は夜の7時から午前2時の間は鳴いてはいけない。
- (26) a. 命令：雄鳥は夜の7時から午前2時の間は鳴いてはいけない。  
 b. 違反：雄鳥が夜の7時から午前2時の間に鳴く。  
 (b'. 違反条件：雄鳥が夜の7時から午前2時の間に鳴くと、)  
 c. 結果：一家の長が死ぬ。  
 d. 理由：雄鳥は明け方に鳴くものであり、夜鳴くということは昼夜の秩序を壊すということである。そういうことはあってはならない。（食べる口実？）

- (27) a. Obu osá:ngá ense:néne zigwî:re, ote:ra endú:rû abá:ntu báídzé bazikwátê.  
 b. obu o-sang-a e-n-se:nene zi-gu-ire, o-te:r-a  
 c. when you(sg.)-find-FV Aug10-NPr10-grashopper they10-fall-Perf you(sg.)-beat-FV  
 e-n-du:ru a-ba-ntu ba-idz-e ba-zi-kwat-e.  
 Aug9-NPr9-shout Aug2-NPr2-person they2-come-Subj they2-them10-catch-Subj  
 d. イナゴが地面に降りるのを見たら、あなたは人々が来て（一緒に）捕れるように大声を上げなければならない。
- (28) a. 命令：イナゴが地面に降りるのを見たら、あなたは人々が来て（一緒に）捕れるように大声を上げなければならない。  
 b. 違反：イナゴが地面に降りるのを見てもあなたは大声を上げて人を呼ばない。  
 (b'. 違反条件：イナゴが地面に降りるのを見てもあなたが大声を上げて人を呼ばないならば、)  
 c. 結果：あなたは交通事故に遭ったり、蛇に咬まれたりする。  
 d. 理由：イナゴはニョロ族にとって重要な食べ物で、自分1人で捕るのではなく、みんなで分け合うものである。

## 10. 終わりに

タブーというのは、人の行動を制御する大きな原動力となっている。自らを律し、また人をいたわることを可能にする力となっている。伝統的社会においては、これが大きな社会的役割を果たす。ニョロ語のタブーは数が多い。そして内容的も多様である（文字社会では法律で規制するようなものも多い）。それに対して不吉は、世の中には自らコントロールできないものがあり、そういったものが生じた場合の対処の仕方を教えるものである。これも人が社会で生きていくための知恵として一定の役割を果たしている。

日本民俗学も俗信ということでタブーに関心を寄せるが、ここでいうタブーと警句、また不吉の区別ができていない。ここで言う論理的分析をしないからである。

## 参考文献

板橋作美 1998 『俗信の世界』 東京堂出版。

梶 茂樹 1985 「テンボ族における個人名—言語人類学的考察—」, 『季刊人類学』 16(1): 47-88.

梶 茂樹 2012 「アフリカ人のコミュニケーション—音・人・ビジュアル—」 『言語研究』 142: 1-28.

梶 茂樹 2019 「ニョロ語のタブー表現：その記述と分析」 『京都産業大学論集. 人文科学系列』 52: 3-27.